

## 集団精神療法の質評価方法のレビュー

分担研究者：中島 美鈴

独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 非常勤研究員

### 研究趣旨：

集団認知行動療法の治療者を評価する尺度についてシステマティックレビューを実施した。その結果、データベース検索 (n = 95326) およびスノーボール検索 (n = 17) のうち、重複 (n=10576) を除く、84767 件について抄録をレビューする第一段階スクリーニングを実施した。その結果、128 件が基準を満たし、第 2 段階の全文スクリーニングを経て 121 件が除外され (レビューや解説 n = 15, セラピストが評価対象でない n = 54, 定量化されていない n = 18, 集団形式でない n = 27, スタンダード CBT でない n = 6), 7 つの集団認知行動療法の治療者を評価する尺度が見出された (Wong et al., 2019; Cambell et al., 2013; Trijsburg et al., 2002; Burlingame et al., 2002; Bassett et al., 2016; Bastick et al., 2018; Chawla et al., 2010)。これらは (1) 物質乱用や境界性パーソナリティ障害、後天性脳障害など特定の疾患を対象にしていること、(2) 認知行動療法以外の心理療法を含む包括的な尺度もしくは、マインドフルネスやスキーマセラピーのような特異的な技法を評価するものであるという点において集団認知行動療法の治療者の基盤スキルを評価するものとは言えなかった。

### A. 研究目的

集団認知行動療法の治療者の質を評価するための尺度を概観する。

ence/y assessment" or "intervention competence/y" AND "group therapy" or "group format" or "group treatment"

### B. 研究方法

集団認知行動療法の治療者を評価する尺度についてシステマティックレビューを実施した。

- ・取り込み基準
  - (1) 定量化可能な CBT 能力測定に関する英語の出版物
  - (2) メンタルヘルス問題を経験している成人集団を対象とした集団認知行動療法であり、個別形式やオンライン形式でなく、家族を対象にしたものでもないこと。
  - (3) レビューや解説ではない
- ・期間：1980 年 1 月ー2021 年 6 月
- ・検索エンジン：Scopus, Web of Science, Medline, PubMed
- ・検索式："therapist competence/y" or "therapeutic competence/y" or "clinical skill" "clinical competence/y" or "assessing competence/y" or "comp

### C. 研究結果

システマティックレビューの流れを図 1 に示す。データベース検索 (n = 95326) およびスノーボール検索 (n = 17) のうち、重複 (n=10576) を除く、84767 件について抄録をレビューする第一段階スクリーニングを実施した。その結果、128 件が基準を満たし、第 2 段階の全文スクリーニングを経て 121 件が除外され (レビューや解説 n = 15, セラピストが評価対象でない n = 54, 定量化されていない n = 18, 集団形式でない n = 27, スタンダード CBT でない n = 6), 7 つの集団認知行動療法の治療者を評価する尺度が見出された (Wong et al., 2019; Cambell et al., 2013; Trijsburg et al., 2002; Burlingame et al., 2002; Bassett et al., 2016; Bastick et al., 2018; Chawla et al., 2010)。

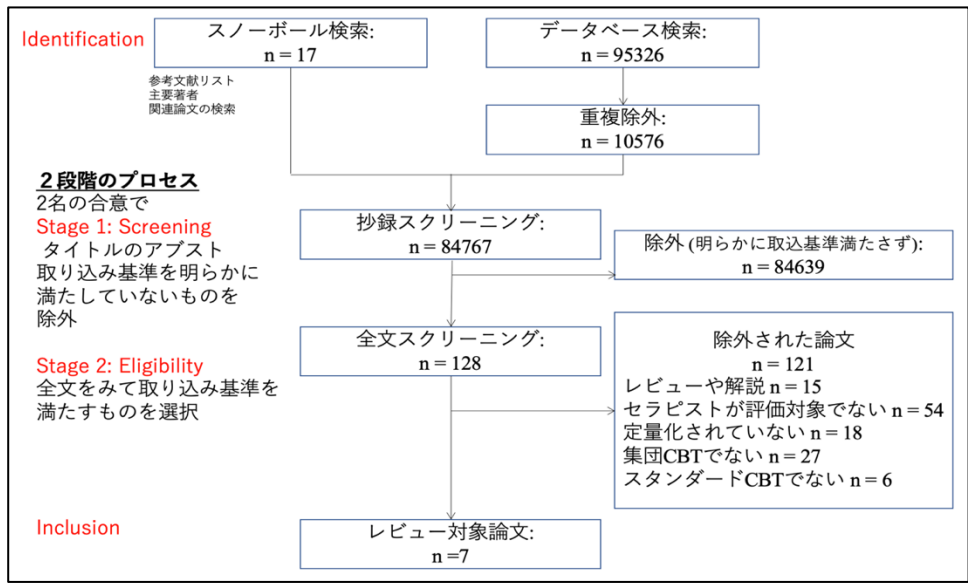


図1 システマティックレビューの流れ

D. 考察

本研究では、集団認知行動療法の治療者の質を評価するための尺度を探索した。その結果、7つの集団認知行動療法の治療者を評価する尺度が抽出された(表1)。しかし、これらは(1)物質乱用や境界性パーソナリティ障害、後天性脳障害など特定の疾患を対象にしていること、(2)認知行動療法以外の心理療法を含む包括的な尺度もしくは、マインドフルネスやスキーマセラピーのような特異的な技法を評価するものであるという点において集団認知行動療法の治療者の基盤スキルを評価するものとは言えなかった。今後は、集団認知行動療法の質を担保しながら、普及していくために、集団認知行動療法の対象や技法、セッティングを越えて共通して用いることのできる評価基準の作成が必要である。

E. 結論

本研究で調査した限り、集団認知行動療法の治療者の質を評価する尺度で、特定の疾患や問題の対象者や特定の技法ではなく、共通した基盤スキルを測定する尺度はない。

表1 集団認知行動療法(集団療法)の治療者を評価する尺度

| References              | Instrument  | Target population | Setting                   | Measurement properties   |
|-------------------------|---|-------------------|---------------------------|--|
| Wong et al.(2019)       | group facilitation competency checklist   | 後天的脳損傷患者          | リハビリグループ                  | (a) Facilitating focused group discussion, (b) Communication skills, (c) Interpersonal style, and (d) Session structure.   |
| Cambell et al.(2013)    | TSF ACES (Twelve Step Facilitation Adherence Competence Empathy Scale)  | 覚醒剤乱用者            | 地域密着型外来依存症治療センター          | アドヒアランス、コンピテンシ、規定行動、総合共感度、セッション全体のパフォーマンス  |
| Trijsburg et al.(2002)  | CPIRS (Comprehensive Psychotherapeutic Interventions Rating Scale) 包括的精神療法介入評価尺度  | オランダの精神療法家3,604人  | フィールド調査                   | 特異的要因(行動的、認知的、経験的、精神分析的、精神力動的、戦略的介入と経験的手順[チェアワーク])は、CPIRSにおける経験的根拠に基づく介入カテゴリーを反映している。その他の要因(促進、権威的支援、コーチング、指示的プロセス、相互作用の構造化)の12因子。   |
| Burlingame et al.(2002) | GPIRS (Group Psychotherapy Intervention Rating Scale) 集団精神療法介入評価尺度  | パーソナリティ障害患者など     | -                         | グループの構造、言語的な交流、心理療法的な雰囲気構築と維持  |
| Bassett et al.(2016)    | CBT+SET (Substance Education and Twelve step Introduction)  | 青年期の薬物乱用者         | 少年矯正施設                    | 認知行動療法(CBT)と物質教育・12ステップ導入(SET)を組み合わせたアドヒアランスとコンピテンシーを測定  |
| Bastick et al.(2018)    | GSTR-R (Group Schema Therapy Rating Scale - Revised)  | BPD               | 国際的多施設RCT・外来              | 「一般的なセラピストの行動」「限定的な再育成」「集団治療スキル」「集団風土」「構造」「共同セラピストチーム」の6つ+特異的なモード認識と変化への働きかけ、認知的介入、経験的介入、行動パターン破壊の介入の4つ  |
| Chawla et al.(2010)     | MBRP_AC (Mindfulness-Based Relapse Prevention Adherence and Competence Scale) マインドフルネスと物質使用への再発を防ぐことを目的とした認知行動療法プログラムのセラピスト評価尺度 | 物質使用障害を持つ成人       | 薬物乱用プログラム受講後のアフターケアとしての外来 | アドヒアランスとコンピテンシ。コンピテンシは、一般的なセラピストの能力(オープンな質問によってフィードバックを引き出し、それに応えるセラピストの能力、正確な共感・評価)と、マインドフルネスセラピストの能力(例:マインドフルネス瞑想に関する期待や誤解の明確化)および、総合的なセラピスト能力(セラピストがチームとして働き、セッションを話題に沿って進める能力など)を測定。 |

## 引用文献

- Wong D., Grace N., Baker K., McMahon G. (2019). Measuring clinical competencies in facilitating group-based rehabilitation interventions: development of a new competency checklist. *Clinical Rehabilitation*, 33 (6),1079-1087.
- Campbell B.K., Manuel J.K., Manser S.T., Peavy K.M., Stelmokas J., McCarty D., Guydish J.R. (2013). Assessing fidelity of treatment delivery in group and individual 12-step facilitation. *Journal of Substance Abuse Treatment*, 44 (2), 169-176.
- Trijsburg R.W., Frederiks G.C.F.J., Gorlee M., Klouwer E., Den Hollander A.M.,  
• Duivenvoorden H.J. (2002). Development of the Comprehensive Psychotherapeutic Interventions Rating Scale (CPIRS). *Psychotherapy Research*, 12 (3), 287-317.
- Burlingame, G. M., McClendon, D. T., Alonso, J. (2011). Cohesion in Group Therapy. *PSYCHOTHERAPY*, 34-42.
- Bassett, S. S., Stein, L. A., Rossi, J. S., Martin, R. A. (2016). Evaluating Measures of Fidelity for Substance Abuse Group Treatment With Incarcerated Adolescents. *Journal of Substance Abuse Treatment*, 66, 9-15.
- Bastick, E., Bot, S., Verhagen, S. J. W, Zarbock, G., Farrell, J., Brand-de Wilde, O., Arntz, A., Lee, C. W. (2018). The development and psychometric evaluation of the Group Schema Therapy Rating Scale-Revised. *Behavioural and Cognitive Psychotherapy*, 46(5), 1-18.
- Chawla, N., Collinsa, S., Bowena, S., Hsua, S., Growa, J., Douglass, A., Marlatt, G. A. (2011). The mindfulness-based relapse prevention adherence and competence scale: development, interrater reliability, and validity. *Psychotherapy Research*, 4, 388–397.

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- Nakashima, M., Inada, M., Tanigawa, Y., Yamashita, M., Maeda, E., Kouguchi, M., Sarada, Y., Yano, H., Ikari, K., Kuga, H., Oribe, N., Kaname, H., Harada, T., Ueno, T., Kuroki, T. (2021). Efficacy of Group Cognitive Behavior Therapy Targeting Time Management for Adults with Attention Deficit / Hyperactivity Disorder in Japan: A Randomized Control Pilot Trial. *Journal of Attention Disorders*, 26, 377–390.  
<https://doi.org/10.1177/1087054720986939>
  - 中島美鈴, 藤澤大介, 松永美希, 大谷 真.もう一歩上を目指す人のための集団認知行動療法治療者マニュアル.2021 金剛出版
  - 中島美鈴.大人の ADHD と認知行動療法の実践.国際経済労働研究 76(10),13-19, 2021
  - 中島美鈴.成人期の注意欠如・多動症の認知行動療法. 臨床精神医学 50(5),439-444, 2021
  - 中島美鈴.再起動!集団療法 成人期の注意欠如・多動症の人のための集団認知行動療法. 精神科治療学 36(11), 1253-1257, 2021
- ### 2. 学会発表
- 中島美鈴. グループにおける否認と回避を解決するための 12 のポイントと集団認知行動療法治療者評価尺度を用いた中級者向け実習.集団認知行動療法研究会 2021 年度中級研修,2021
  - 中島美鈴. 成人期 ADHD の時間処理障害に焦点づけた認知行動療法. 第 21 回認知療法・認知行動療法学会. 2021
  - 前田エミ, 牧野加寿美, 中島美鈴, 要齊. 休職中の発達障害者に対する時間管理の集団認知行動療法プログラムの作成. 第 21 回認知療法・認知行動療法学会. 2021
  - 中島美鈴. 時間管理を困りごととする人を対象にしたオンライン集団認知行動療法. 第 21 回認知療法・認知行動療法学会. 2021

G. 知的所有権の取得状況(予定も含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし